

# 東北お遍路プロジェクトを通じた 広域連携の輪

Interprefectural cooperation through TOHOKU OHENRO PROJECT

新妻 香織 (一社)東北お遍路プロジェクト 理事長

## 東北お遍路フォーラム

2015年2月4日に開催した東北お遍路フォーラムで、(一社)東北お遍路プロジェクトは東北お遍路の

巡礼地53個所を発表した(図1)。青森県八戸市の蕪嶋神社から福島県いわき市新舞子道山林まで、東日本大震災の津波被災地に点々と津波の記憶をとどめるポイントが選ばれた。県別では青森1個所、岩手9個所、宮

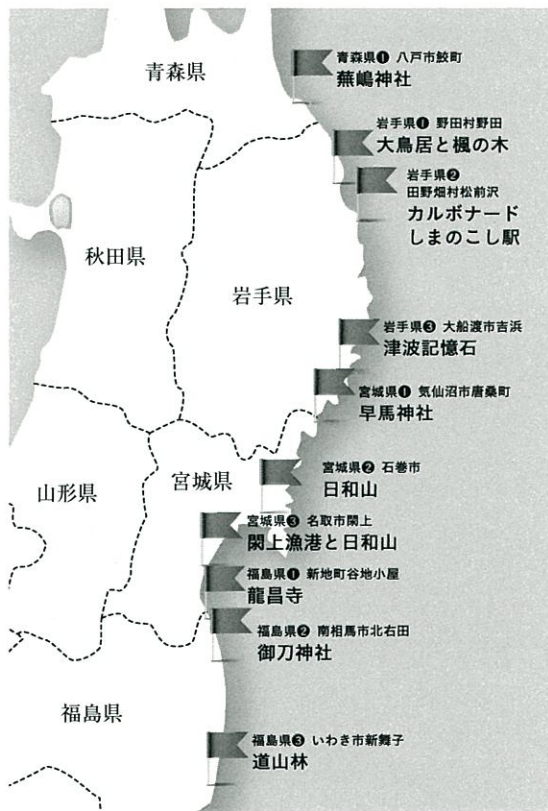


図1 東北お遍路の主な巡礼地



NIITSUMA Kaori

1960年福島県生まれ。日本女子大学国文学科卒。雑誌編集者を経て、30歳から5年間アフリカに移住。震災後「(一社)ふくしま市民発電」と「(一社)東北お遍路プロジェクト」を創設。相馬市市議会議員。

城24個所、福島19個所。2月6日の河北新報が「被災地巡礼まず53個所」と社会面に9段抜きで掲載してくれたおかげで、各地からさまざまな反響が寄せられ、東北お遍路に対する被災地の期待が伝わってきた。

## すべてはここから始まった

2011年3月11日14時46分。この時間を逆回ししたいときと誰もが思っていることだろう。東日本大震災の大津波が10mの高さになってわが故郷福島県相馬市を襲った。地震当日は自宅にいて、すぐに海岸近くに住む両親を避難させていたが、実家は流れ、故郷は壊滅した。相馬市の死者・行方不明者482名、そこ

には同級生4人も含まれていた。

さらに津波で電源を喪失した福島第一原子力発電所では、3月12日、14日、15日と次々と原子炉建屋が爆破。大学時代から反原発を標榜していた私にとっては、信じがたい事態だった。私たちは次世代に対し取り返しのつかないことをしてしまった！後悔と苦渋が胸を塞いだ。

決して絶望しない！この社会を選択した責任が私たち世代にはある。1ミリでもいい相馬市を次世代に手渡さなければ、申し訳が立たないと自分を奮い立たせた。

## 被災者支援の中から 生まれた東北お遍路

私はもともとエチオピアでの





写真1 震災前の松川浦大洲海岸

NGO活動に長年携わってきたことから(NPOフー太郎の森基金)、早速海外援助のスキルを使った支援に取り掛かった。幸いなことに、鎌倉の青年ら(「鎌倉組」と呼んでいた)が、

週2回が家にボランティアに入ってくれ、さまざまなことを一緒に手掛けてくれた。まず第1段階は「津波で家をなくした人びとの緊急支援」、第2段階は「仮設住宅に移るための

生活支援」、第3段階は「避難所に移らなかった在宅被災者支援」、そして第4段階「故郷を再建するためのまちづくり」と段階に応じて支援の対象と内容を変えていった。

2011年7月にスタートさせた

「松川浦の未来を語るゼミナール」(全8回)は、オピニオンリーダーに学び、自由闊達に思いや理想を語り合いつつ、市民が自分たちのまちを再建していくためのビジョンづくりを試みようというものだ。こんな時でもなければお目にかかれないような講師が毎月相馬市を訪れて、彼らの知恵と愛情を注いでくれた。

そしてこのゼミナールから私は二つのアクションを起こした。一つが「ふくしま市民発電」というコミュニティ発電会社と、そしてもう一つが「東北お遍路プロジェクト」だった。

### 必ず福島に来なければならぬ仕掛けづくり

美しい景観と新鮮な魚介類が売りの相馬市の松川浦(写真1)だったが、津波で景観は壊滅(写真2)、おまけに原発事故で魚も取れないこと……。松川浦が再び観光地として復権する



写真2 砂州一決壊し、太平洋とつながった松川浦

には、どうしてもここに来なければならぬ動機づけが必要だ……。そんなことを考えあぐねていた時に、思いついたのが「お遍路」だった。夫の故郷高知県を巡礼して歩くお遍路さんの姿をよく目にしていていまいしれない。

お遍路なら、1箇所でも抜けていたら必ず人は来ざるをえない。東北の被災地青森県八戸市、福島県いわき市全体でこれをやれば、相馬市の交流人口も必ず増えると思った。

中には「被災地を観光地にするのか」という批判もないことはなかった。しかし日々被災地の中で暮らしている目線からいえば、「物見遊山で



もいからやって来てお金を落とし  
てほしい」というのが正直な気持ち  
だ。被災地の人がとが生業を維持す  
るための観光誘客も立派な復興の手  
段になるはずと突き進んだ。

そうして、仙台市の異業種交流会  
「はなもく73会」の会員や「NPO  
フー太郎の森基金」の会員らの賛同  
を得て、2011年9月に会を発足。  
間もなく、巡礼地の公募が始まった。  
知り合いのいなかった岩手県は、全  
被災自治体を巡って趣旨を説明して  
歩いた。おかげで大槌町の市民団体  
は全戸アンケートをとって、候補地  
を選定してくれた。

一方では、児童・教職員84名が死  
亡・行方不明になった石巻の大川小  
学校の父兄からは、「候補地に入れな  
いでほしい」との手紙もいただいた。  
そして2012年末には暫定候補地  
105箇所を選定することができ、  
翌年から候補地の検証作業を開始し  
た。

## 東北お遍路プロジェクト の思い

私たちは東北お遍路プロジェクト  
(こころのみち)の趣旨を次のように

定めた。

- 「東北お遍路プロ  
ジェクトは、東日本  
大震災により被害を  
受けた福島県から青  
森県までの沿岸地域  
に慰霊・鎮魂のため  
の巡礼地を選定し、  
千年先まで語り継ぎ  
たい物語を見出して  
「こころのみちの物  
語」として発信し続  
けます。そして民  
族や宗教を越えた多  
くの方々に巡礼地を  
たどって頂くことに  
より、東北の各被災  
地が連携して、千年  
後までも経済的・文  
化的に自立発展でき  
る復興の一助となるよう、活動を続  
けてまいります。」
- その具体的な活動の柱は次の四つ  
だ。
- 1.. 東日本大震災による犠牲者の慰  
霊と巡礼(こころ)のみちづくり
  - 2.. 津波の記憶を風化させることな  
く将来世代へと伝承



写真3 福島県いわき市久之浜稲荷神社は、津波の後の火災にも耐えた

- 3.. 農漁業、観光業など地場産業の  
再生と創出
- 4.. 被災地域のネットワーク化

## 東北の被災自治体を巡る旅

さて、被災地を実際に訪ねて候補  
地を検証していく作業が始まったが、

私は1年半の間に担当した青森、岩  
手、福島の22自治体それぞれを、2  
〜4回訪ねることになった。後世に  
継承する道をつくっていくためには、  
地元の合意が欠かせないと考え、候  
補地の推薦者だけではなく、市民団  
体の方々や自治体の首長や担当者ら  
に会って情報交換をしていった。



写真4 第1号標柱は福島県新地町龍昌寺に



写真5 紙芝居による語り継ぎ



下子か

どこの自治体も復興に向けて動き始めていたが、まだまだ更地が広がるばかりだった(写真3)。それでも戦略的にお遍路を利用したいと考える岩手県野田村の小野村長は、「まちはずれの国道沿いでは通過されるだけなので、ま<sup>ち</sup>中<sup>に</sup>に巡礼地を選びたい」と語った。同じ岩手の田野畑村の石原村長は、「実は、震災の前に東北お遍路の構想を練っていたことがあった。今はすっかり時間がなくなってしまったが、あなた方に会えてよかった!」とバトンを渡された。また除染が終わって間もない福島県の楢葉町や広野町では、「まずは住民の帰還が先」との声もあったが、「巡礼の人びとが入ることによって、食堂や民宿を始めようという住人も現れるのではないだろうか」と説得もした。

### 巡礼地決定とこれから

そうして持ち寄られた情報は2014年9月から有識者会議(創生委員会)を開催して、巡礼地を決定する作業に入っていた。選考委員は宮原育子氏(宮城大学)、結城登美男氏(民俗研究家)、あんべ光俊氏(シ

ンガー)、赤坂憲雄氏(福島県立博物館館長)の4名。「千年先まで語り継ぎたい物語性があるかどうか」、が一つの基準となった。公募で寄せられた105箇所と現地調査で得た候補地を一つひとつ審査していく作業は、3回にわたって行われ、冒頭に書いたように、ようやく、53箇所の巡礼地が選定された。発足から3年。感無量だった。

さて、これから東北お遍路はどう発展していくのだろうか。第1弾の53箇所の巡礼地が公式発表されたが、その後、第2弾、第3弾の巡礼地が追加され、おそらく10年くらいで最終的な形が整うのではないだろうか。現在、「東北お遍路巡礼地図」を製作中だが、地図ができれば、これを持って歩く人びとの姿も見られるに違いない。それから被災地を実際に訪れてもらうために、巡礼地ツアーを企画していく。

巡礼者のためにもう一つ私が温めてきているものに「マイお遍路ブック」がある。最近では若い女性たちが寺を巡ってご朱印を集めるのがちょっとしたブームになっているようだが、バイナター方式で「東北お遍路ガイ

ドブック」ができないものかと考えている。ご朱印や写真、パンフレット類、切符、日記などを自由に差し込み、「マイお遍路ブック」を各人でつくることができる。これが普及した暁には、「マイお遍路ブック・コンテ

スト」なども開催したいものだ。すでに宮城県白石市の山田石販によって福島県の新地町と相馬市の2箇所の巡礼地に東北お遍路の標柱が建っている(写真4)が、これから本格的にモニュメントや標柱の受け入れにも対応していきたい。また、被災地の皆さんが「東北お遍路」を冠したお菓子や土産品をつくる時は、申請

### 復興の道筋が新しい文化となるように

弘法大師の足跡を踏む四国お遍路と違い、東北お遍路には核となる思想も宗教もない。私たちは東日本大震災という悲しい出来事に対して、純粋に頭を垂れて手を合わせ「祈る」という次元に立とうと決めた。それゆえ、東北お遍路は宗教や国を越えて人びとを受け入れるものになるはずだ。

ずだ。

数百年に及ぶ巡礼から四国お遍路は「お接待」の文化を育んできた。これは今でも確実にここを歩くお遍路さんの心を癒している。東北の被災地の巡礼の道も多くの人びとが往来するようになれば、もともとひと懐っこい東北の人びとだから、四国お遍路のような「お接待」の文化もやがて生まれてくるかもしれない。広島市の市民団体からは、各巡礼地の物語を紙芝居にする企画をいただいている(写真5)。震災の記憶を風化させないツールとして、この紙芝居が利用できるのではないかと期待し、また、各地域の語り部の育成にも努めたい。そうやって各地域がそれぞれ巡礼地を育てていってこれれば、1本の祈りの道ができ、辛いが前向きに生きた私たちの震災の記憶が、千年先にも語り継がれていくことだろう。

震災から4年が過ぎ、風化が言われ出しているが、復興にはまだまだ長い時間が必要だ。東北お遍路(ころのみち)が、被災地の「希望の種」の一つとして育ってくれるよう、これから活動を続けていきたい。